

# 令和6年度 むらネット九州

(豊かなむらづくりをめざして)



農林水産省  
九州農政局

# 目 次

## 令和6年度 農林水産祭むらづくり部門

1. 令和6年度(第63回)農林水産祭むらづくり部門受賞団体	1
2. 三賞受賞者の概要	
天皇杯	
・えーひだカンパニー株式会社(島根県 安来市)	2
内閣総理大臣賞	
・中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会(青森県 北津軽郡中泊町)	3
日本農林漁業振興会会長賞	
・特定非営利活動法人 アグリやさと(茨城県 石岡市)	4
3. 農林水産大臣賞受賞団体(九州ブロック)の紹介	
(1)九州ブロック受賞団体位置図	5
(2)農林水産大臣賞	
・農事組合法人 庄の夢(熊本県 山鹿市)	6
・夢蛸たぶがわ2016(鹿児島県 枕崎市)	14

## 豊かなむらづくり全国表彰事業

1. 「豊かなむらづくり全国表彰事業」と「農林水産祭」	20
2. むらづくり部門のこれまでの三賞受賞一覧	21
3. これまでの受賞団体一覧表(九州県別)	
・福岡県	22
・佐賀県	23
・長崎県	24
・熊本県	25
・大分県	26
・宮崎県	27
・鹿児島県	28

## ディスカバー農山漁村(むら)の宝

1. 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」とは?	29
2. 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第11回選定結果)	29
3. 九州農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定結果	30

## 令和6年度(第63回)農林水産祭むらづくり部門受賞

令和6年度(第63回)農林水産祭における受賞者が10月2日に決定し、むらづくり部門では、豊かなむらづくり全国表彰事業の農林水産大臣賞受賞団体の中から、天皇杯等の三賞が決定しました。



### 令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業 農林水産大臣賞受賞団体

受賞団体名	所在地	受賞団体名	所在地
ほんべつ☆うきうき未来らぼ	北海道 中川郡 本別町	東地区集落環境保全会	岐阜県 下呂市
中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会	青森県 北津軽郡 中泊町	農事組合法人 ジョイファーム山中	滋賀県 蒲生郡 竜王町
向黒沢集落	秋田県 北秋田市	1738 やんたん里づくり会	京都府 綴喜郡 宇治田原町
清流と山菜の里ほその村	山形県 尾花沢市	えーひだカンパニー株式会社	島根県 安来市
特定非営利活動法人 アグリやさと	茨城県 石岡市	農事組合法人 西山維進会	岡山県 高梁市
大田原とうがらしの郷づくり推進協議会	栃木県 大田原市	有限会社 こんぱら	愛媛県 今治市
特定非営利活動法人 こいねみさくぼ	静岡県 浜松市	農事組合法人 庄の夢	熊本県 山鹿市
農事組合法人 滝の又農産	新潟県 南魚沼郡 湯沢町	夢蛸たぶがわ2016	鹿児島県 枕崎市

## 天皇杯

### えーひだカンパニー株式会社（島根県 安来市）

88のアイデア実現を目指して、「え〜ひだ」を創るカンパニー

#### ◆地域の沿革と概要

安来市は島根県東部に位置し、鳥取県と隣接する。南部は中国山地、北部は中海に注ぐ飯梨川・伯太川全流域が市域に含まれる。このうち比田地区は安来市の市中心部から35km離れた標高300～450mほどの盆地に位置し、東比田地区の「東比田振興協議会」、西比田地区の自治会組織が地域活動の主体となり、地域課題に関する話し合いや課題解決に向けた具体的な取組が行われていた。



#### ◆むらづくり組織の概要

平成14年に浮上した地元の小学校の統廃合の話为契机に今後の取組を考える中で、拠点施設「比田いきいき交流館」を整備。地域の特産品づくりや販売に取り組み一定の成果はあったものの、人口減少や高齢化には歯止めがかからず、「このままでは比田がなくなる」との危機感から地域ビジョンの策定に取り組んだ。住民1人1人が比田の将来ビジョンを共有することが重要なことから全世帯の中学生以上にアンケートを実施するとともに、世代ごとのワークショップを実施。寄せられた1,469のアイデアから88のアイデアを採用し、平成28年に「比田地域ビジョン」が完成した。ビジョンの実現に向けた取組を進める組織として任意組織「えーひだカンパニー」を設立し、平成29年に株式会社化した。

#### ◆むらづくりの取組概要

##### (1) 農業生産面

- ① 「比田米プロジェクト部」では高齢化等で作付けが困難となった農地を中心に営農をしている。また、ドローンによる農薬散布、リモコン除草機による除草作業などの作業受託は延べ194haで行い、高齢農家の営農を支えている。
- ② 安来節で有名などじょうも近年生産が減少しており、排水不良の水田を活用して令和5年からどじょう養殖を開始した。
- ③ 米価下落の不安から「比田米」ブランド化、日本酒・焼酎・米ビールなどの加工品を商品化し、売上高は増加している。

##### (2) 生活・環境整備面

- ① アンケートで多かった通勤・通学・通院・買い物の不便さ解消の地域ビジョン実現のため、「生活環境部」が「えーひだ交通運営協議会」と共同でデマンド交通を運営し、令和5年度には延べ1,045人が利用している。
- ② 買い物環境の悪化により、令和5年から高齢者の買い物支援、見守り活動を兼ねた移動販売車「ひだまり号」を運行し、81世帯が利用している。
- ③ 小学校との協働事業として子供たちが出店や商品開発、動画制作などに直接関わることで、自信や意欲、比田への郷土愛の醸成につながっている。
- ④ 指定管理を行う温泉施設「湯田山荘」では、令和6年1月から2月まで冬期の除雪作業が困難な高齢者の冬期一時居住用施設として試行し、6名が滞在した。

## 内閣総理大臣賞

### 中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会（青森県 北津軽郡中泊町）

「誰も取り残さない直売所」を目指す女性たち挑戦

#### ◆地域の沿革と概要

中泊町は、津軽半島の中央部を走る津軽山地の西側に位置し、汽水湖十三湖につながる岩木川が流れる稲作地帯の旧中里町と、山地丘陵地で漁港を有する旧小泊村が合併した飛び地を抱える地域である。直売所「ピュア」は、平成7年開設当初は地元消費者で賑わったが、米主体で品揃えが少ないこと、都市部から離れていること、冬期間の地吹雪などから客足が遠のき、販売額は漸減していた。一方、稲作一辺倒からの脱却、高齢者が活躍できる場の創出や高齢化が進み地域の暮らしの拠点として何かできないか、模索が始まった。



#### ◆むらづくり組織の概要

稲作一辺倒からの脱却に向けて、野菜の導入や加工に対する生産者の機運の高まりを受けて、平成25年に直売所に新たに農産物加工・販売施設が整備され、冠婚葬祭業者の「(株)アクトプラン」が指定管理者に選定された。これと同時期に、直売所に出荷していた生産者等を構成員とする女性中心の出荷者協議会を設立し、地域の農産物の販売先確保及び所得向上、町民の暮らしを充実させたいとの強い思いを持っていた会長が中心となり、「(株)アクトプラン」との連携・協働により直売所の運営が始まった。

#### ◆むらづくりの取組概要

##### (1) 農業生産面

- ① 免許証を返納し出荷に苦慮する高齢生産者を多く抱えていたことと、直売所では午後には品揃えが乏しく売上減少の一因でもあったことから、地区内5か所に個別集荷場所を設置し、高齢農家からの集荷やコミュニティバスを活用した出荷体制を構築した。このこともあり品揃えが豊富となり、会員の年間販売額も増加した。
- ② 持続可能な直売所を目指し、出荷者協議会が若者生産者への参加呼びかけやベテラン会員による技術指導などを行い、会員数は平成25年以降、増加傾向にある。
- ③ 協議会の会員の約9割は女性で構成されており、女性の会長と協議会事務局の店長が中心となり、集荷体制の強化や移動販売、朝市の開催など毎年新規事業を打ち出し、直売所の販売額は平成25年に比べ、約2倍の約2億円に増加している。

##### (2) 生活・環境整備面

- ① 朝市の開催に合わせて、「朝ヨガ」や「健康相談コーナー」を設置し、食生活改善推進委員会等と連携した健康づくりの取組を行っている。
- ② 高齢者等の買物弱者対策が課題となっていたことから、平成30年から商工会、バス会社、大学等と連携した商品配送サービス「ピュア宅配事業」や、旧小泊村での展示販売に取り組んでおり、利用客が商品の搬入を手伝うなど、利用客同士や直売所スタッフとの交流と、お互いの顔が見える関係をつくることで、高齢者の見守り活動にもつながっている。数年前には物価高騰の影響を受けて赤字となり、移動販売終了も検討されたが、手数料を上乗せしてでも続けてほしいとの地元からの声と、利用者の笑顔と地域の健康を守りたいとの強い思いから、手数料の上乗せなどで収支均衡を保ち、継続している。
- ③ 令和4年からは津軽地域の郷土料理を継承するため「津軽の食文化伝承手づくり体験」を開催しているほか、みそ及び豆腐の製作キットを直売所で販売している。

## 日本農林漁業振興会会長賞

### 特定非営利活動法人 アグリやさと（茨城県 石岡市）

有機農業で持続可能な交流・定住を～農は最高の教育資源～

#### ◆地域の沿革と概要

石岡市八郷地区は、茨城県のほぼ中央部、首都圏からおよそ70km圏内に位置し、筑波山等の山並みに三方に囲まれた盆地型の地形を形成している。たばこ養蚕が盛んだったが、昭和60年代のたばこ減反政策や中国からの絹製品の輸入の増加により、生産農家が減少した。本地域を管轄するJAやさとでは、昭和51年から生協産直による野菜づくりへの転換を進めており、平成9年に消費者に安心安全を届けるために、有機栽培部会を設立した。



#### ◆むらづくり組織の概要

JAやさとは平成9年の有機栽培部会の設立後、平成11年には新規就農研修農場「ゆめファーム」を設置し、年間数多くの新規就農生産者の育成や中学生等の農業体験の受入れを行ってきたが、JAの担当職員の負担の増加により体験受入事業の継続や新規就農研修の拡大が困難なことから、別組織で担っていく必要性が生じた。

こうした中で、石岡市、JAやさと、生協などの関係機関で検討を重ね、平成20年に「特定非営利活動法人アグリやさと」が設立され、農業体験を受入れる「朝日里山学校」、新規就農者の研修を行う「朝日里山ファーム」の管理運営を担っている。

#### ◆むらづくりの取組概要

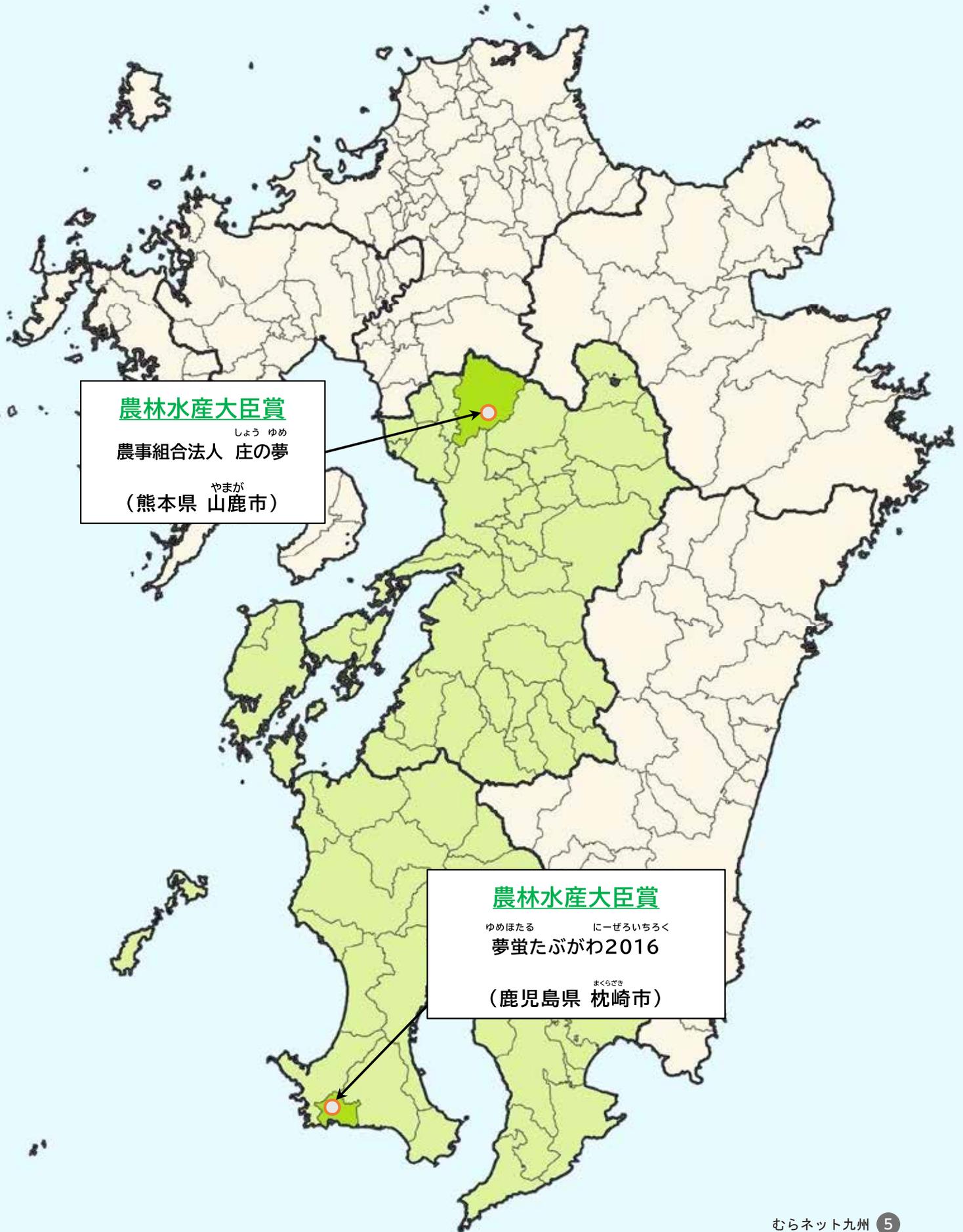
##### (1) 農業生産面

- ① 朝日里山ファームでは、1年1家族の受入れを行い、2年間有機農業の研修を行った後、地域内で独立してもらう仕組みであり、これまでに5家族がJAやさとの生産者として独立している。
- ② JAが運営するゆめファーム卒業生を含めて、JAやさとの有機栽培部会は32名のうち26名が新規参入農家で、朝日里山ファームは有機農家の育成に貢献している。
- ③ 朝日里山小学校は、食体験、農業体験、工芸体験、林業体験の受入れを行い、令和5年度には小中学校、高校、生協組合員など合計で約12,000名を受入れた。

##### (2) 生活・環境整備面

- ① 廃校は当時の姿のまま朝日里山学校として利用され、雑草などに覆われていた遊休農地は体験農場に整備されるなど、美しい農村景観に生まれ変わったことで、地元の方には喜ばれ、来訪者には感動を与えている。
- ② 有機野菜作りを体験する親子は、地元生産者と交流しながら、有機栽培を体験することで、有機農業の理解者になっている。
- ③ 就農相談会に積極的に参加し、研修生の発掘や常時就農相談をしている。また、空き家情報の提供によってイチゴ生産者などの移住につなげている。

# 農林水産大臣賞受賞団体(九州ブロック)位置図



**農林水産大臣賞**  
しょう ゆめ  
農事組合法人 庄の夢  
やまが  
(熊本県 山鹿市)

**農林水産大臣賞**  
ゆめほたる にーぜろいちろく  
夢蛸たぶがわ2016  
まくらざき  
(鹿児島県 枕崎市)

## 農林水産大臣賞

# 農林水産大臣賞受賞

## 農事組合法人 庄の夢

(熊本県 山鹿市)

先人の知恵がつまった“庄の夢”、未来へ

### ■地域の沿革と概要

山鹿市は県北部の内陸部に位置し、北に県境の筑肥山麓を中心とした中山間地、東から西に向かって流れる菊池川流域の水田平坦地、南部の畑台地に大別され、それぞれの地域特性に活かした農業生産活動が展開されている。特に稲作は、菊池川水系の清らかな水と肥沃な土壌に恵まれ、食味の良い米が生産されており、令和3年には菊池川流域に二千年にわたる米作りが日本遺産に認定されている。

山鹿市鹿本町庄地区は、山鹿市の東部に位置し、八方ヶ岳を源とする上内田川流域（菊池川水系）に美しい田園が広がる水田地帯であり、稲作が盛んであるとともに、菊やイチゴ等の施設園芸作物が栽培されており、多様な品目の農業経営が展開されている。

図1 位置図



### 1. むらづくりの動機、背景

庄地区は古くから稲作文化が発達し、8世紀には肥後国府によって条里制が敷かれ効率的な営農が可能となった。地区の東部には、米を貯蔵する機能を有する鞠智城跡（国指定史跡）があり、稲作文化を中心として発展した地区である。

庄地区の米作りはきれいで豊富な水が湧き出たことから広まったとされる。庄地区には1190年代に「米島八幡宮」が創建されている。周辺地区の社名の由来は各地名となっているが、庄地区では「米島」という社名が伝わることから米作りが盛んであったことが伺える。

盛んにおこなわれてきた米作りに欠かせない農業用水は、地区外の「庄堰」から複数の地区を跨っているが、上流域の他地区には水利権がない庄地区専用の用水路である。

このように、先人が築き、受け継がれてきた条理遺構が残る庄地区固有の美しい田園環境は、非農家を含む地域住民が一体となって、用水路や農道の維持保全が取り組まれ、

#### 地区データ

- |                    |               |             |
|--------------------|---------------|-------------|
| ① 所在地：熊本県山鹿市鹿本町庄地区 | ② 地区の規模：集落    | ※R7.3.31 現在 |
| ③ 総人口：7,695人       | ④ 総世帯数：2,875戸 |             |
| ⑤ 農家戸数：244戸        | ⑥ 主要農産物等：水稻、栗 |             |

この地に生まれ育った住民の原風景として、条里制が敷かれて約千年経つ今日まで保たれている。

昭和30年頃、水稲からの転作のため菊（切り花）の栽培が始められ、鹿本地域は県下最大の菊産地へと発展した。

庄地区の西部に上内田川を挟んで隣接する津袋地区では、平成初期（1990年代）に集落営農組合が発足され、庄地区においても集落営農組合の設立に向けた説明会が実施されたが、当時、農家平均年齢が50歳代であったこともあり、営農共同化には至らなかった。10年後にも同様に説明会が開催されたが、地域住民の合意形成が図れず組合設立は見送られた。

しかし、庄地区においても農家の高齢化、後継者不足を背景に、今後、急速な農家の減少が予測され、農地を守るためには農地を遊休化させず担い手へ引き継いでいく必要があった。

そのような中、庄地区の出身だった山鹿市農業振興課長及び農地集積専門員が「このままでは庄地区が衰退してしまう」「今が集落営農化に向けた最後の機会」と考え、営農改善組合を設立し県の農地集積加速化事業に取り組み、重点地区に指定された。

平成24年8月19日に第1回全体集会を開催し、「人・農地プラン」、「農地集積加速化事業」について解説するとともに、庄地区の人口や年齢構成などの現状を示しながら、10年後に想定される地区の将来を説明することで、集落営農化に向けた住民の理解醸成を図った。

また、農家及び地権者等約80戸に対して現在の営農状況や後継者の有無や資金借り入れ等の営農計画についてアンケート調査を実施した結果、97.5%（全80戸中、78戸）が地域農業の維持・発展のためには、「今後、地域営農組織の設立や農地集積が重要である」と回答し、「地域の農地は、地域で守る」、「先祖が守ってきた農地を子々孫々まで受け継いでいく」という強い意思が固められた。



写真1 H25.10 農事組合法人庄の夢設立総会

第1回全体集会から、6回の全体集会が開催され、地区の農家だけでなく、入作者や非農家の地主を対象とした話し合いや個別訪問を継続的に実施した結果、平成25年5月、農作業を受託する地域営農組織「庄営農組合（組合員33戸、経営面積28ha）」を設立し、特定農作業受委託（耕起、代かき、田植え、収穫）を58戸と契約締結した。その後、活動実績を踏まえ、将来にわたる地域農業の安定のためには法人化が必要であるとの理解が共有されたことから、平成25年10月に、農事組合法人「庄の夢」の設立総会が開催され、同年10月31日、農事組合法人「庄の夢」として登記された。

## 2. むらづくりの推進体制

### (1) 活動体制

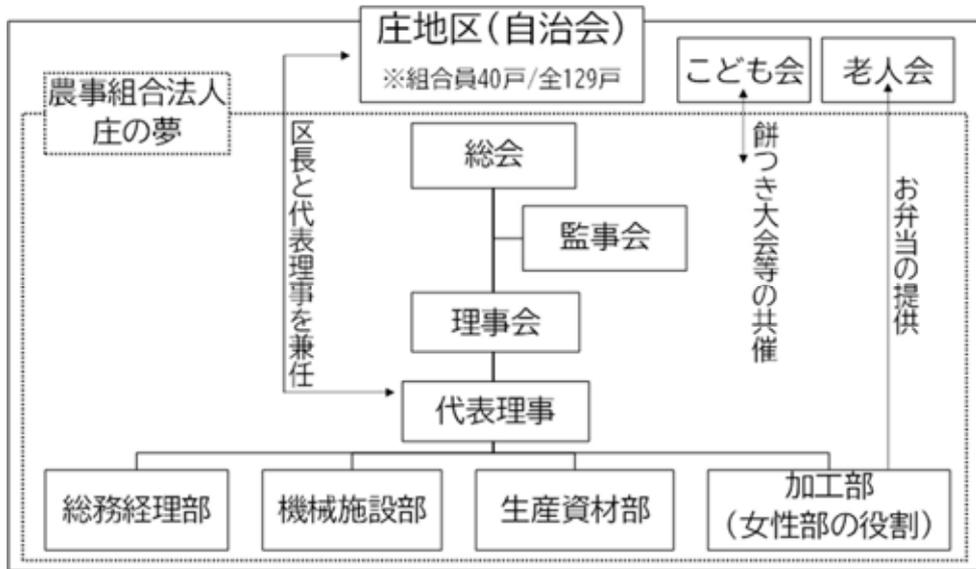
地区の農業者が組合員となっており、現在の代表理事は区長を兼任するとともに、自治会の評議員、生産組合長といった多くの役員が同法人の組合員である。このため、地区の文化祭・体育祭等の行事の運営等において重要な役割を担っている。

### (2) 運営方法と組織構成

総務経理部、機械施設部、生産資材部、加工部の4部門を有し、年1回の総会において各部からの提案を組織として実行に移す体制が整えられている。

また、県や市をはじめとする行政機関、JA、高校、農業大学校と連携し、活動の分野を広げている。

図2 むらづくり推進体制図



## 3. むらづくりの農林漁業生産面への寄与状況

### (1) 環境に配慮した米作り

「庄の夢」では、設立当時（平成25年）から適正施肥や土づくりなど、環境にやさしい農業を目的として、以下の取組みを行っている。

- ① クリムソクローバー、ヘアリーベッチ、レンゲ等緑肥作物による土づくり（化学肥料削減）
- ② サング由来の土壌改良剤及び微生物資材使用（肥料削減）
- ③ 草刈り及び害虫防除のための野焼き実施（農薬削減）
- ④ 土壌分施の実施（毎年）

これらの取組みの一部は、地区内の篤農家の栽培技術を受け継いでおり、地区の農業技術を継承している。平成26年8月に特別栽培農産物生産認定、同年に環境保全型農業直接支払交付金の交付を受け、環境と調和のとれた農業生産活動を実践し様々な認定を受けている。

- ・平成26年 エコファーマー認証や特別栽培農産物の認定
- ・平成27年 くまもとグリーン農業生産宣言
- ・平成29年 地下水と土を育む農畜産物を生産する認証団体

以上の取り組みの結果、ほ場への肥料・農薬の過剰な使用が低減されていることで、庄地区の美しい田園環境が保全されるとともに、当地域でのグリーン農業のモデルとなっている。

## (2) 水田農業維持・発展への貢献

設立当時（平成25年）は、組合員33戸、28haで特定農作業受託（耕起、代掻き、田植え、収穫）契約を交わした。その後これまでの活動実績を踏まえ、同年10月に農事組合法人を設立し、現在（令和6年4月時点）の作業受委託面積は52haと、設立当時から約1.9倍に増えた。庄地区全農用地面積の約半分を当法人が管理し、水田農業の維持・発展に寄与している。



図3 経営面積の推移

また、地区の農業に必要な不可欠である農業用水の水源となる「庄堰」や用水路の保全管理は、組合外と連携しながら地域の住民が一体となって取り組んでいる。

## (3) 特別栽培米 庄の夢のブランド力向上と販路拡大

環境に配慮し、手間ひまかけたこだわりの米作りにより品質が向上し、主力の米である「森のくまさん（県育成品種）」は、日本穀物検定協会における米の食味ランキングで「特A」評価を5年連続・通算7回獲得しており、卸・小売店から指定買いされるなどブランド化が図られている。

### ア 東京（関東圏）への進出

平成27年から、東京の大手スーパー「こだわりや\*1」で「庄の夢（米）」の販売を開始した。毎年、新米の出回る時期には、組合員自らスーパーの店頭で試食宣伝をし、日本遺産である地域の歴史背景や冷めても美味しい米の品質をPRしたことで、クチコミや購入した人の紹介等で、取扱店舗は45店舗、年間販売額は約1,316万円まで拡大している。

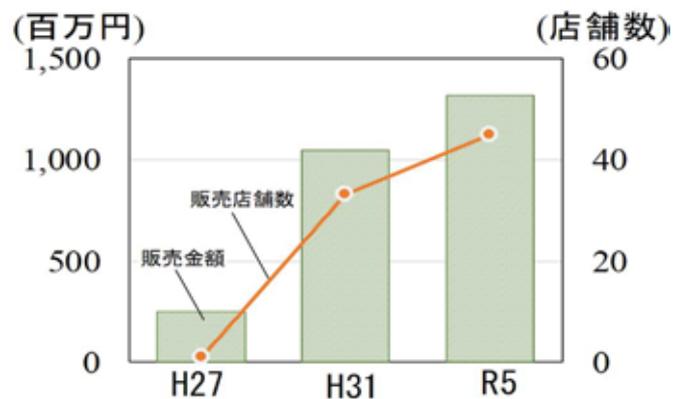


図4 「こだわりや」販売額及び取扱い店舗数

- \* 1 化学的な農薬や肥料、合成添加物などを極力含まない主に国内産原料の食品、日本産、外国産オーガニック



写真2 出店時のHP掲載

#### イ ホームページの開設とインターネット販売（BtoC）

法人「庄の夢」のホームページ、山鹿市物産協議会が運営する『食の王国山鹿うまかもん！ショップ』、楽天市場及び地元肥料会社が運営するホームページで販売している。

#### ウ 県内外の業者との取引拡大

弁当業者、米の卸業者への直接販売に加え、茶業卸業者との業務提携による販売や、令和3年には献穀事業に取り組んだことを知った卸業者からの問い合わせも増えており、更なる新たな販路拡大と販売網の確立・充実に取り組んでいる。

#### エ 海外への輸出

国内の米消費が減少する中、将来にわたり安定した生産と販路を確保するため、平成30年11月から香港に輸出を開始し、「City super」へ毎年約2tを輸出している。今後は台湾など、輸出先の拡大にも取り組む予定である。

### 4. むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

#### (1) 都市との交流【春の花まつり】

平成26年から毎年（令和2年～令和4年を除く）4月に緑肥として植栽しているクリムソクローバーの真っ赤な花が咲く田園を背景に、「庄の夢加工部」が、美味しくて評価の高い「庄の夢」の炊き立てのご飯や地元でとれた食材を使用し、「庄おもてなしバイキング」や「お弁当」等で田舎料理を振る舞う。さらに、庄地区で生産した特別栽培米や農産物の販売に加え、加工部が作った佃煮、庄の米粉を使用した「米ぼう」「芋ねり」も販売し、地元や地域外の人々との交流を図っている。

多い年は、700名を超える来場者があり、環境にやさしい農業の取り組みへの理解を深める一大イベントとして定着している。



写真3 春の花まつりパンフレット



写真4 庄おもてなしバイキングの様子



写真5 加工部が地元食材で作ったお弁当



写真6 地元農産物の販売

## (2) 若い世代への「農」及び「食」の継承活動

地域の農地を守るためには、農業の後継者確保が必要であり、そのためには若い人にも農業を知ってもらうことが大切であると考え、地元の高校、農業大学校と積極的な連携に取り組んでいる。「春の花まつり」の「庄の夢加工部」の活動を見た地元の農業高校から、生徒も参加させてほしいとの要請を受けたことをきっかけに、高校、農業大学校との連携を始めた。農業高校以外の近隣の高校や農業大学校にも声をかけ、食育を通じて農業を知ってもらう活動を行っている。

### ア 城北高校調理科

調理科は、調理師を目指す料理の道を志す生徒が多く、食材の生産現場学習も兼ねて、平成29年度から田植え・稲刈りの実習を行っている。庄の夢組合員の指導を受け、鎌で刈った米は学校創立記念式典に振る舞う弁当用の米に使用され、生徒のアイデア溢れる料理で、80人分の弁当が作られる。

### イ 鹿本農業高校

鹿本農業高校生が「庄の夢」で加工した米粉と地元の食材である「イチゴ」と「きんかん」を使ったスイーツを作り、春の花まつりに来場した多くの消費者をもてなす一助となっている。

令和5年度は、庄の夢の指導のもと、鹿本農業高校・鹿本高校・鹿本商工高校及び崇城大学が合同で「穂増(酒米)」<sup>ほまし</sup>を栽培し、酒づくりの研究を支援した。

### ウ 菊池農業高校

草刈り等の体験実習を受け入れ、庄地区の労力軽減となっている。また、春の花まつりでは高校生が栽培した農産物を出品している。

### エ 県立農業大学校

農家派遣研修生の受け入れを令和4年度から開始し、延べ4名全員が県内で就農している。また、繁忙期にはアルバイトを雇用し、令和5年度は5名の学生が種まきと田植え作業に取り組んだ。

以上のように、地区内外の食や農業に関わる生徒・学生を対象に食の大切さや農業・農村の重要性などを伝える活動を通して、次世代の担い手育成においても貢献している。

### (3) 女性の活躍（加工部）

「庄の夢 加工部」は、平成25年法人設立と同時に結成され、18名が活動している。

部会のうち2名が県の「ふるさと食の名人」の認定を受け、「庄の夢」のカラーで赤いお揃いのエプロンを身に着け活動している。

春の花まつりや東京でのフェアでの「庄の夢」のPR、年末の餅つきなど「庄の夢」ファン獲得に向け、大活躍している。

以前は、地区の婦人会やJA女性部等が活動していたが、設立当時には、すでに解散しており、加工部は地区の女性の交流の場にもなっており、地域コミュニティの維持にも役立っている。

#### ア お弁当の受注販売

加工グループでは、地元で採れた野菜を中心に、四季折々の食材を使った手作り弁当を注文に応じ作っている。

敬老会のイベントで使う弁当は、毎年、当加工部が請け負っており、敬老会では皆さん毎回、弁当を楽しみにされている。

#### イ 加工品の開発・販売

加工グループのメンバーは、2人の「ふるさと食の名人」を始め、それぞれに得意料理をもっている。

毎年開催している「春の花まつり」では「食した人を魅惑する」漬物類や煮しめなどの郷土料理がふるまわれ、講評を博している。また、庄の夢で作られた米を使用した加工品として、米の味が感じられる「米ぼう」やゆずの香りが高い「芋ねり」があり、イベントでは庄の夢のお土産として販売している。

また、山鹿市は茶や栗も産地であり、秋の「マロンフェスタ」では、新たな料理に挑戦し、庄の米と地元の栗、地元の紅茶を使った「紅茶栗ごはん」を考案した試食会などを開催するなど、米以外の地域農産物を利活用し、地域全体の情報発信にもつながっている。



写真7 庄の夢加工部



写真8 東京での販促フェア



写真9 加工部が作った手作りお弁当



写真10 加工部が作った漬物



写真11 ふるまわれた郷土料理



写真12 加工品の「米ぼう」

## ウ 熊本地震における炊き出し

平成28年4月に発生した熊本地震では、特に大きな被害を受けた益城町の避難所に支援物資としておにぎりを届け、避難された方々の笑顔が戻った。当日は、早朝から加工部を始め、多くの組合員が集まり庄地区の団結力が発揮された。



写真13 おにぎりを作る様子



写真14 避難所へおにぎりを搬入する様子



写真15 避難所へ届けたおにぎり

農林水産大臣賞

**農林水産大臣賞受賞**  
**夢蛸たぶがわ2016**  
 (鹿児島県 枕崎市)  
 交流人口を意識した田布川地区でのむらづくり

■地域の沿革と概要

枕崎市は、薩摩半島の南端に位置し、産業については、日本一の生産量を誇る鯉節の製造のほか、本格焼酎の生産やお茶やさつまいも、野菜、電照菊、牛・豚を中心とした畜産など農業も盛んなまちである。本土最南端の始発・終着駅である枕崎駅の整備、枕崎国際芸術賞展や港まつり「きばらん海」の開催など、交流人口の増加に努めている。

山地が取り囲む自然豊かな当地区は、市街地から約7km北部に位置する集落である。中心部を流れる二級河川に沿うように水田が連なり、周辺の丘陵地は区画整理された畑地帯である。

当地区の人口は、昭和45年時点では、700人を超えていたが、令和7年時点では207人にまで減少し、高齢化率は60%を超えている。高齢化・過疎化が進み、地域の活力低下や農地の荒廃化等多くの課題を抱えている。

図1 位置図



1. むらづくりの動機・背景

田布川地区では、昭和57年から堆肥生産及び農作業の共同作業をしていた「たばこ八日会」が、平成23年に自然解散となった。そんな中、「たばこ八日会」の構成員の一部が中心となり、地域営農の円滑な推進を図ることを目的に、「田布川村づくり営農支援推進委員会」が発足し、話し合い活動が行われ始めた。この推進委員会の話し合い活動が契機となり、現在のむらづくり活動につながっている。

2. むらづくりの推進体制

(1) 活動体制

夢蛸たぶがわ2016を含む3組織が連携し、それぞれ活動を行うことにより、田布川地区の住民の生活を支えている。

地区データ

- |                    |                     |             |
|--------------------|---------------------|-------------|
| ① 所在地:鹿児島県枕崎市田布川地区 | ② 地区の規模:1集落         | ※R7.3.31 現在 |
| ③ 総人口:207人         | ④ 総世帯数:130戸         |             |
| ⑤ 農家戸数:6戸          | ⑥ 主要農産物等:お茶、さつまいも 等 |             |

## ① 夢蛸たぶがわ 2016

住民の有志 11 名の正会員と準会員で構成されている。

組織理念に、「地域住民の自治意識を高めて、福祉の増進と青少年の健全育成を願い、他地域との交流を深め、教育及び文化の振興と活力とぬくもりに満ちた自然豊かな地域づくり」を掲げ、総務部、環境保全部及び交流・文化部の3つの部会を設け、各種活動を行っている。

## ア 総務部

- ・組織の管理運営に関すること
- ・事業計画、予算、決算に関すること
- ・各部や関係機関・団体との連携調整に関すること

## イ 環境保全部

- ・自然環境保全事業に関すること
- ・施設整備事業に関すること
- ・河川愛護活動に関すること

## ウ 交流・文化部

- ・学習会、講習会に関すること
- ・青少年育成に関すること
- ・交流活動に関すること

## ② 株式会社輝楽里たぶがわ

地域福祉の維持・向上を目標として活動している。人口減少に伴い、当地区の小売店数は減り、唯一残った農業協同組合事務所に設置されていた購買店舗の閉鎖をきっかけに、移動手段はもとより、地域生活の基盤が崩れてしまうことに危機感を抱き、地域住民や夢蛸たぶがわ 2016 の会員が出資者となり、平成 27 年 2 月に設立された。

同年 8 月に購買店舗を開業し住民からの相談窓口、高齢者が集う場所の提供、高齢者宅の見回りや惣菜や日用品の配達など、非営利的に様々な活動を行っている。

## ③ 集落営農組織くらの里田布川

平成 23 年に設立され、地域内の営農の円滑な推進を図り、当地区の農業の振興と農業経営の改善を目標に活動を行っている。水稻の植付けや収穫などの農作業を自ら行えなくなった地区内の水田の所有者・耕作者から委託を受け、農作業を請け負っている。

組合員の出資金をもとに、組織の農業用機械の整備も進めており、それらの機械を共同利用することで、小規模経営農家の負担軽減を実現している。また、オーナー農園制度を取り入れ、集落内外の出資者に対し、農業に触れる楽しみや自分（家族）が携わった農産物を味わえる嬉しさを提供している。

このような活動により、地域営農の推進を図るだけでなく、地域内の水田の維持、活用、遊休農地の斡旋など水田の有効活用を図ることにより、地域の生活環境の維持にもつながっている。

図2 むらづくり推進体制図



### 3. むらづくりの農林漁業生産面への寄与状況

#### (1) 農用地の保全及び景観作物の植栽について

当地区では、荒廃農地・遊休農地の増加を防ぐため、20年程前から「たぶこ八日会」が中心となり、遊休農地にコスモスなどを播種・植栽する活動を実施していた。

現在は、「夢蛭たぶがわ2016」が主体となり、地域住民と協力し、地域の景観づくりや農用地の保全に努めている。地域住民の交流機会が広がるだけでなく、地域内外の住民から、「景観が保たれ、地域が華やいでいる」との声が聞かれ、見物客が年々増加していることが励みになるなど、地域を守るという自治意識の向上にもつながっている。

令和5年度には、地区の入り口にある遊休農地に県外の企業から提供を受けた赤ソバを播種し、非常に美しい赤ソバが一面に広がった。当該取組は、農用地の保全だけにとどまらず、珍しさも相まって、市外からの見物客が増えており、枕崎市全体の交流人口の増加にも寄与している。



写真1 遊休農地の管理作業の様子



写真2 遊休農地へコスモスの播種の様子

## (2)他組織と協力した取組である最適土地利用総合対策について

地域の農地を守るため、令和3年度から南九州市の養蜂農家及び行政と協力し、最適土地利用総合対策事業に取り組んでいる。

「夢蛩たぶがわ 2016」が主体となり、5年間で約6.5haの農地を再生し、赤ソバの採種や播種をし、粗放的に管理を行っている。遊休農地が、解消されるだけでなく、蜜源の確保や蜂が越冬するための栄養源となっている。

事業終了後も現在の取組が継続できるよう養蜂農家及び県外企業の協力を得ながら、前述の赤ソバの播種面積の拡大を目指す方向で協議を進めている。

## (3)集落営農組織くらの里田布川による稲作の継承について

前身組織である「たばこ八日会」の稲作部会から農作業受託を引き継いでおり、水田の農作業等を請け負うだけでなく、水田の遊休農地についてはオーナーを募り、米の栽培を共同で行うなど遊休農地の発生予防・解消に努めている。オーナー農園に関しては10aあたりの植付け・収穫等に係る管理費の出資を受け、収穫された米(10aで約450kg程度)はすべて出資者におさめている。当活動は、遊休農地の発生による生活環境の悪化防止だけではなく、現耕作者の水利管理や病害虫防除の作業軽減、地産地消の取組に繋がっている。



写真3 オーナー農園制度による田植え



写真4 オーナー農園制度による田植え

## 4. むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

### (1)ホタルの舞うビオトープの整備について

当地区では、元来、季節の風物詩であるホタルが観賞でき、地域住民に楽しまれていたが、十数年ほど前からホタルが見られないとの声が聞かれるようになった。

そこで、河川にビオトープを創設し、ホタルの復活を目指すだけでなく、集落単位で環境・生物の保全に努め、地域住民の自然環境に対する意識の向上を図っている。

ビオトープの整備によりホタルが戻り、毎年近隣の小学校による見学や校外授業の場として利用、ホタルと音楽が楽しめる夢蛩コンサートなどを実施し、交流人口の増加、魅力発信につなげている。



写真5 ピオトープ整備の様子



写真6 夢蛍コンサートの様子

## (2) 鬼火焚きの実施について

当地区は、毎年年末年始に鬼火焚きのイベントを実施している。鬼火焚きとは、正月の7日に大やぐらを焼いて、正月飾りについてきた悪霊をはらう鹿児島県の伝統行事である。

少子高齢化により、郷土芸能や伝承行事の継承が難しくなり、地域の活力も衰退している地域も多い中、鹿児島県の伝承行事の継承と地域の交流人口増加を目的として「夢蛍たぶがわ 2016」が中心となり行っている。

この鬼火焚きは、市内の多様な組織と連携し、花火の打ち上げ、和太鼓演奏、よさこい踊りなども披露され、毎年市内外より200名以上が訪れる地域の一大イベントとなっている。



写真7 完成した鬼火焚きのやぐら



写真8 鬼火焚き用杉トーチ制作の様子



写真9 鬼火焚きの様子

### (3) 買い物弱者支援について

地域の有志で組織された「株式会社輝楽里たぶがわ」は農協事業所跡地に購買店舗を設置しており、「夢蛸たぶがわ 2016」の会員も出資を行っている。当地区は、市の中心部より離れた地域にあり、地域内の運転免許証を持たない高齢者などの買い物の手助けができればと活動に取り組んでいる。購買店舗は、高齢者宅への配達なども含め、1日に30名程度が利用しており、年間600万円の売上げがある。

今後、地域の人口減少等に伴い、利用者や売上げは減る見込みで、厳しい環境にあるが、地域の福祉力向上の基本理念から、併設した水産加工施設の収益を補填することで地域の生活基盤となっている場所（組織）を守っている状況である。



写真10 店舗での買い物の様子



写真12 水産加工施設の外装



写真11 店舗での買い物の様子



写真13 水産加工施設の内装

## 「豊かなむらづくり全国表彰事業」と「農林水産祭」

### ◆豊かなむらづくり全国表彰事業

農山漁村で、集落や校区、市町村等を活動範囲とする団体の農林水産業を核とした生活・文化等を含む幅広い地域活動を表彰する事業で、昭和 54 年度から実施しています。

優良事例を表彰し、その業績発表等を行うことで、地域ぐるみの連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林漁業や農山漁村の健全な発展に繋げることを目的としています。

### ◆農林水産祭

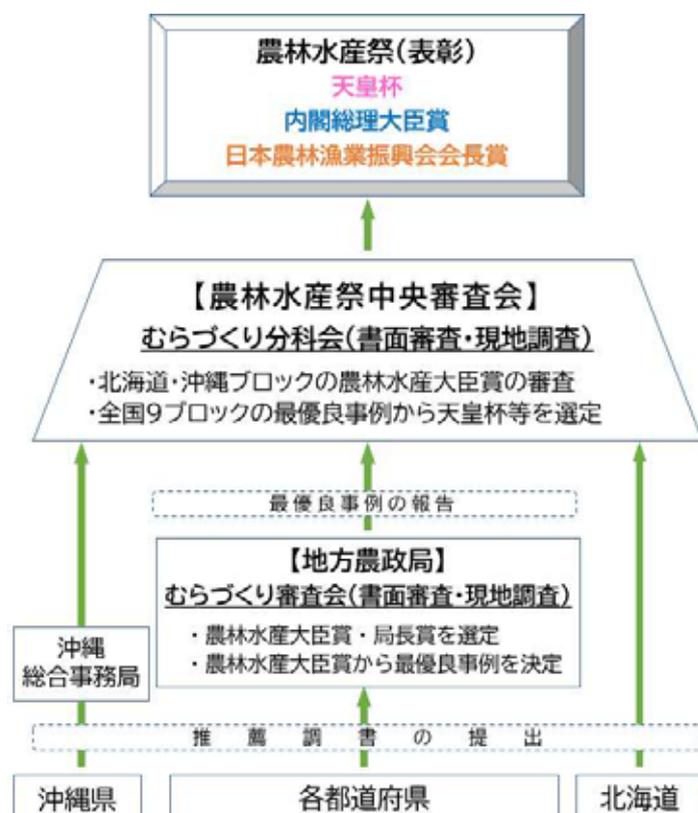
農林水産業と食に対する認識を深め、農林水産業の技術改善及び経営発展の意欲高揚を図るため、国民的な祭典として昭和 37 年から毎年 11 月 23 日の勤労感謝の日を中心に開催しています。

全国各地で農林水産祭参加行事として開催される約 280 の農林水産物の品評会・コンクール等の農林水産大臣賞受賞者の中から、毎年、7 部門\*の天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞が選定されます。

むらづくり部門では、「豊かなむらづくり全国表彰事業」で選定された農林水産大臣賞受賞団体の中から天皇杯等が選定されます。

※（農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくり）

#### むらづくり部門の審査・表彰の流れ



天皇杯



農林水産祭式典

むらづくり部門のこれまでの三賞受賞一覧

年度	天皇杯	内閣総理大臣賞	日本農林漁業振興会会長賞
昭和 54 年度	新しいむらづくり推進委員会 (愛媛県 伊方町)	根小屋集落連合会 (秋田県 北秋田市)	—
55 年度	妻生集落 (鹿児島県 屋久島町)	古見をよくする会 (岡山県 真庭市)	—
56 年度	梓山集落 (長野県 川上村)	松神集落 (鳥取県 北栄町)	—
57 年度	姥屋敷集落 (岩手県 滝沢村)	野田区 (愛知県 田原市)	—
58 年度	東部地区振興協議会 (山形県 小国町)	新しいむらづくり推進会議 (栃木県 那須塩原市)	—
59 年度	玖珠町山田地区 (大分県 玖珠町)	広船部落会 (青森県 平川市)	—
60 年度	飯田集落 (島根県 益田市)	荷軽部部落会 (岩手県 久慈市)	—
61 年度	大木区 (愛知県 豊川市)	小串自治会 (長崎県 新上五島町)	—
62 年度	清助新田むらづくり委員会 (山形県 寒河江市)	八千代町コミュニティー推進委員会 (茨城県 八千代町)	—
63 年度	諸塚村自治公民館連絡協議会 (宮崎県 諸塚村)	円城寺地区 (滋賀県 愛荘町)	両向自治会 (岩手県 住田町)
平成元年度	熊地区活性化推進協議会 (静岡県 浜松市)	七軒地域づくり推進協議会 (山形県 大江町)	浅川生活環境改善実行委員会 (徳島県 海陽町)
2 年度	上別府東部地区むらづくり振興会 (鹿児島県 南九州市)	大原地区 (鳥取県 倉吉市)	水と緑の村づくり推進会議 (福井県 大野市)
3 年度	岩戸村づくり実行委員会 (長崎県 雲仙市)	福釜町内会 (愛知県 安城市)	下帯島部落会 (岩手県 洋野町)
4 年度	国頭むらづくり委員会 (鹿児島県 和泊町)	小郷区 (岐阜県 中津川市)	琴浦集落 (新潟県 佐渡市)
5 年度	和光地区自治会 (岩手県 金ヶ崎町)	琵琶池村づくり推進協議会 (栃木県 大田原市)	大見集落 (熊本県 宇城市)
6 年度	大塚むらづくり委員会 (鹿児島県 枕崎市)	西塩沢農村整備促進委員会 (長野県 立科町)	森藤むらづくり推進協議会 (徳島県 吉野川市)
7 年度	三隅町上地区発展対策協議会 (山口県 長門市)	新怡土むらづくり推進協議会 (福岡県 糸島市)	四郷自治振興協議会 (和歌山県 かつらぎ町)
8 年度	秋津野塾 (和歌山県 田辺市)	土呂部地区水芭蕉の郷づくり推進委員会 (栃木県 日光市)	菊永むらづくり推進委員会 (鹿児島県 南九州市)
9 年度	南波多町農業振興協議会 (佐賀県 伊万里市)	大井平集落 (新潟県 津南町)	大和むらづくり会議 (鳥取県 鳥取市)
10 年度	上場自治公民館 (鹿児島県 出水市)	農事組合法人 犬甘野営農組合 (京都府 亀岡市)	時田むらづくり推進協議会 (青森県 五所川原市)
11 年度	石川郷中 (秋田県 八峰町)	(農業生産法人、有限会社) 農業公園信貢山のどか村 (奈良県 三郷町)	西と賀地域実践協議会 (佐賀県 佐賀市)
12 年度	正名字 (鹿児島県 知名町)	中石自治会 (秋田県 男鹿市)	常吉村づくり委員会 (京都府 京丹後市)
13 年度	仁保地域開発協議会 (山口県 山口市)	星野村農業・農村を考える会 (福岡県 八女市)	舞岡ふるさと村推進協議会 (神奈川県 横浜市)
14 年度	大井沢区 (山形県 西川町)	夢ランド十町 (熊本県 和水町)	一本自治振興区 (広島県 庄原市)
15 年度	綾織町地域づくり連絡協議会 (岩手県 遠野市)	小川区 (岐阜県 郡上市)	豊永開発振興会 (岡山県 新見市)
16 年度	松本集落 (大分県 宇佐市)	農事組合法人 いくみ (静岡県 島田市)	上鹿妻第一地区協同組合 (岩手県 盛岡市)
17 年度	渡慶次集落 (沖縄県 読谷村)	十和村おかみさん市 (高知県 四万十町)	あんずの里市利用組合 (福岡県 福津市)
18 年度	ふき活性化協議会 (大分県 豊後高田市)	共栄地区をよくする会 (和歌山県 印南町)	中村集落 (秋田県 横手市)
19 年度	伊座利の未来を考える推進協議会 (徳島県 美波町)	古座川ゆず平井の里 (和歌山県 古座川町)	福吉地域づくり推進協議会 (福岡県 糸島市)
20 年度	榑池地区農業振興会 (新潟県 上越市)	田沢湖牛銘柄確立推進組合 (秋田県 仙北市)	川内野集落 (佐賀県 伊万里市)
21 年度	小次町農産物直売所「ほたるの郷」 (佐賀県 小城市)	喜屋武集落 (沖縄県 糸満市)	槻之屋振興会 (島根県 雲南市)
22 年度	下里農地・水・環境向上対策委員会 (埼玉県 小川町)	大野ヶ原開拓組合 (愛媛県 西予市)	特定非営利活動法人 かまえブルーツーリズム研究会 (大分県 佐伯市)
23 年度	農事組合法人 宮守川上流生産組合 (岩手県 遠野市)	奥能登春蘭の里実行委員会 (石川県 能登町)	久富木区公民館 (鹿児島県 さつま町)
24 年度	浄門の里づくり協議会 (岩手県 二戸市)	NPO 法人 とうもの会 (静岡県 掛川市)	現和校区 (鹿児島県 西之表市)
25 年度	田代自治会 (宮崎県 えびの市)	農事組合法人 ファーム大島 (富山県 射水市)	波瀬むらづくり協議会 (三重県 松阪市)
26 年度	自得地区環境保全会 (青森県 弘前市)	染ヶ岡地区環境保全協議会 (宮崎県 高鍋町)	宮地集落 (岐阜県 郡上市)
27 年度	三芳町川越いも振興会 (埼玉県 三芳町)	須佐地区一本釣船団 (山口県 萩市)	農事組合法人 南檜垣営農組合 (奈良県 天理市)
28 年度	地域共同組合無茶々園 (愛媛県 西予市)	大野地区公民館 (鹿児島県 垂水市)	ゆかい村風間浦鮫鱈ブランド戦略会議 (青森県 風間浦村)
29 年度	阿室校区活性化対策委員会 (鹿児島県 宇検村)	からり直売所出荷者運営協議会 (愛媛県 内子町)	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 (福島県 二本松市)
30 年度	本寺地区地域づくり推進協議会 (岩手県 一関市)	特定非営利活動法人 ゆうきハートネット (岐阜県 白川町)	中津川区公民館 (鹿児島県 さつま町)
令和元年度	西江上区 (沖縄県 伊江村)	一般社団法人 竹田文化共栄会 (福井県 坂井市)	由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」 (山形県 鶴岡市)
2 年度	高根フロンティアクラブ (新潟県 村上市)	湯原集落協定 (宮城県 七ヶ宿町)	農事組合法人 ゆめ野山 (奈良県 五條市)
3 年度	白糸第一自治振興会 (熊本県 山都町)	企業組合さくららの郷 (福島県 二本松市)	伊良の里・食と農推進協議会 (福井県 福井市)
4 年度	稲倉の棚田保全委員会 (長野県 上田市)	下集落支援事業委員会 (京都府 南丹市)	(株) Mt.ファームわかとち (新潟県 小千谷市)
5 年度	百姓百品グループ (愛媛県 西予市)	越沢自治会 (山形県 鶴岡市)	一般団法人押井営農組合 (愛知県 豊田市)
6 年度	えーひだカンパニー株式会社 (島根県 安来市)	中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会 (青森県 北津軽郡中泊町)	特定非営利活動法人 アグリやさと (茨城県 石岡市)

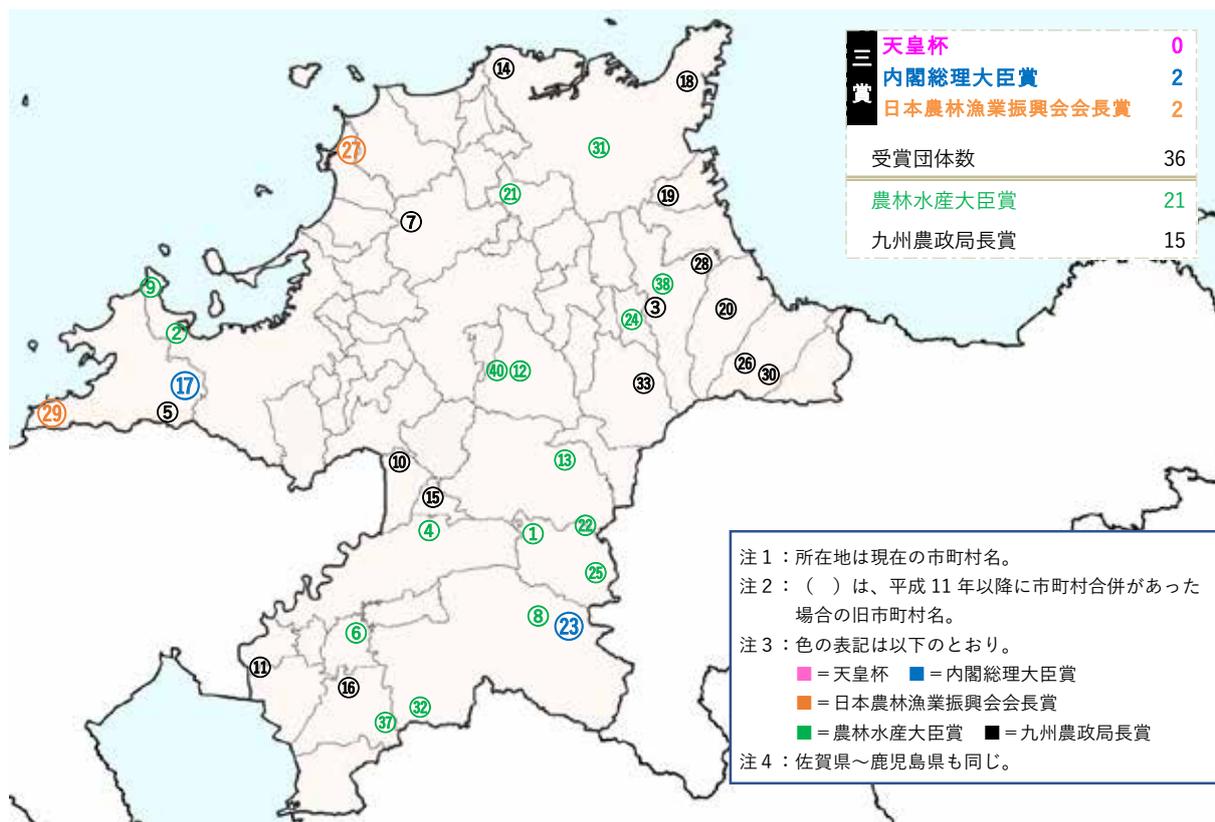
注1：むらづくり部門の日本農林漁業振興会会長賞は昭和 63 年度に新設

注2：太字・着色は九州の受賞団体

受賞団体一覧表（昭和54年度～令和6年度）

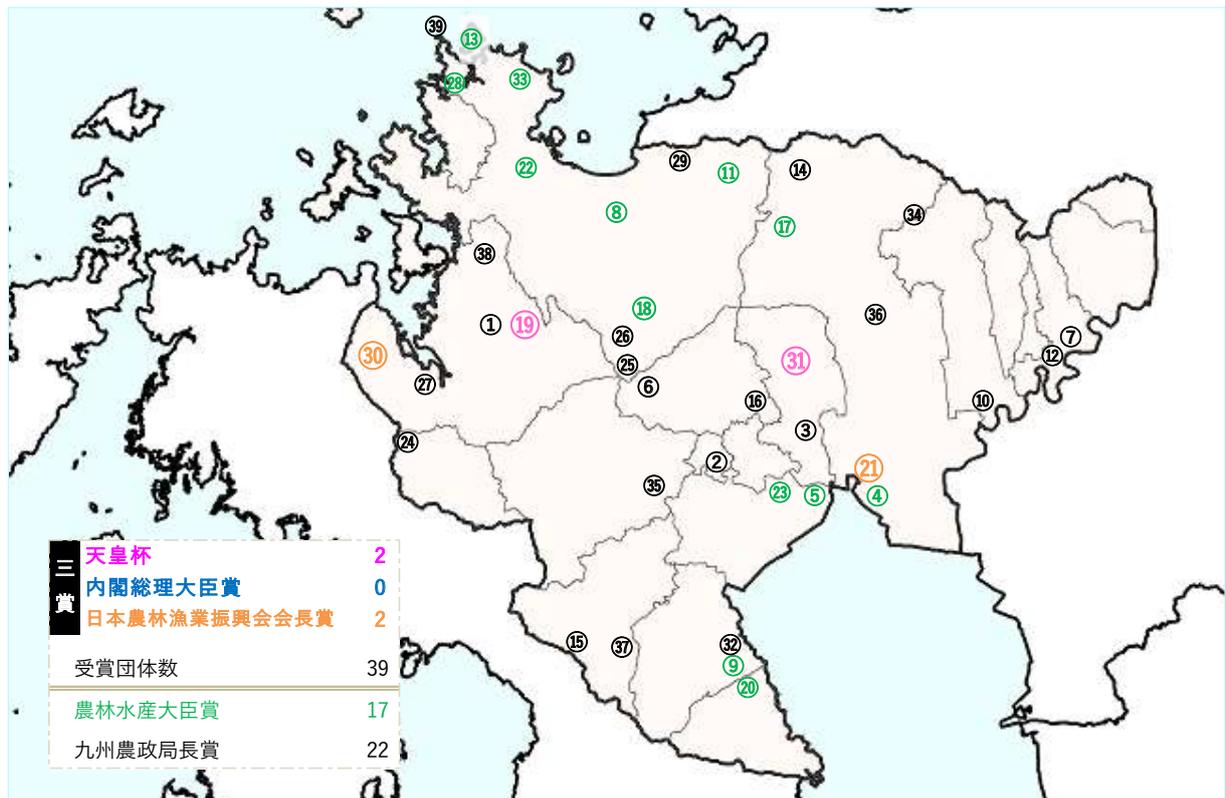
福岡県

年度	団体名	所在地	年度	団体名	所在地
昭和54年度	末石集落	うきは市(吉井町)	14年度	赤村特産物センター運営協議会	赤村
55年度	元岡地区	福岡市	15年度	小塩んホテルの里づくり協議会	うきは市(浮羽町)
56年度	犀川町崎山区	みやこ町(犀川町)	16年度	岩屋地区活性化協議会	豊前市
57年度	住みよい弓削をつくる会	久留米市(北野町)	17年度	あんずの里市利用組合	福津市(津屋崎町)
58年度	雷山地区	糸島市(前原市)	18年度	豊津町営農生産組合	みやこ町(豊津町)
59年度	前津地区	筑後市	19年度	福吉地域づくり推進協議会	糸島市(二丈町)
60年度	日吉地区	宮若市(若宮町)	20年度	合河ゆず祭り実行委員会	豊前市
61年度	棕谷地区	八女市(星野村)	21年度	合馬校区まちづくり協議会地域振興部会	北九州市
62年度	西浦地区	福岡市	22年度	松尾百笑村	八女市(立花町)
63年度	西小田営農組合	筑紫野市	23年度	上津野村づくり推進協議会	添田町
平成元年度	紅粉屋地区村づくり推進協議会	大川市	24年度	—	—
2年度	宮小路果樹組合	嘉麻市(嘉穂町)	25年度	—	—
3年度	高木むらおこし対策協議会	朝倉市(甘木市)	26年度	—	—
4年度	有毛地区	北九州市	27年度	伍位軒集落	みやま市(山川町)
5年度	富多区	大刀洗町	28年度	くまわり会	みやこ町(犀川町)
6年度	瀬高町地域農業振興協議会	みやま市(瀬高町)	29年度	—	—
7年度	新怡土むらづくり推進協議会	糸島市(前原市)	30年度	小野谷行政区	嘉麻市(嘉穂町)
8年度	猿喰地区	北九州市	令和元年度	—	—
9年度	等覚寺地区	苅田町	2年度	—	—
10年度	いわまる共和国	築上町(椎田町)	3年度	—	—
11年度	新入農業農村活性化実行委員会	直方市	4年度	—	—
12年度	杷木町農林業等総合振興対策協議会	朝倉市(杷木町)	5年度	—	—
13年度	星野村農業・農村を考える会	八女市(星野村)	6年度	—	—



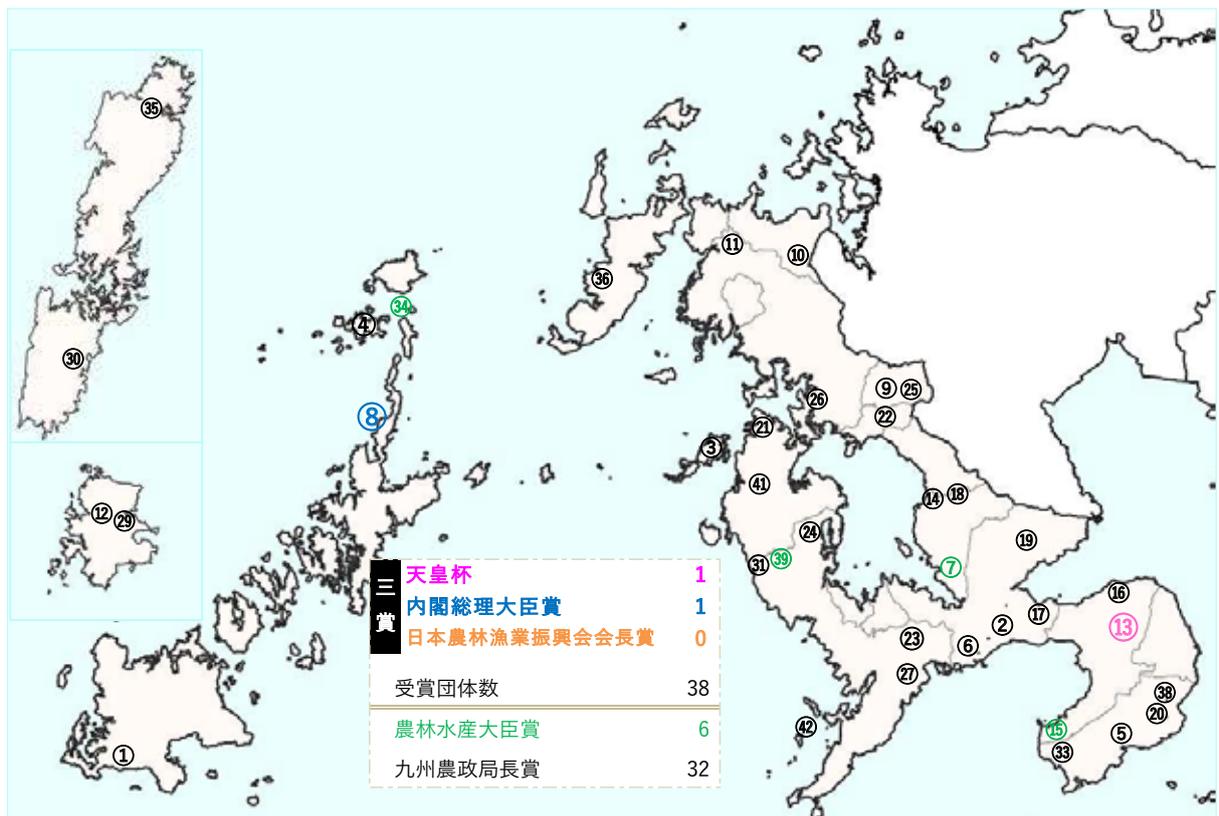
佐賀県

年度	団体名	所在地	年度	団体名	所在地
昭和54年度	南波多町農業振興協議会	伊万里市	①	14年度	岳集落 有田町(西有田町)
55年度	畑ヶ田集落	大町町	②	15年度	蕨野地区 唐津市(相知町)
56年度	練ヶ里集落	小城市(牛津町)	③	16年度	JA 佐賀松浦産地の里直販所利用運営協議会 唐津市(相知町)
57年度	大野集落	佐賀市(東与賀町)	④	17年度	脇野集落 伊万里市
58年度	福富町北区	白石町(福富町)	⑤	18年度	桃山天下市会 唐津市(鎮西町)
59年度	西多久地区拠点地域実践協議会	多久市	⑥	19年度	大白木活力あるむらづくり推進委員会 唐津市(七山村)
60年度	市原地区	みやき町(北茂安町)	⑦	20年度	川内野集落 伊万里市
61年度	半田地区	唐津市	⑧	21年度	小城町農産物直売所「ほたるの郷」 小城市(小城市)
62年度	半田地区	鹿島市	⑨	22年度	嘉瀬の浦区 鹿島市
63年度	千代田町小森田地区	神埼市(千代田町)	⑩	23年度	玄海みなとん里株式会社 唐津市
平成元年度	七山村振興協議会	唐津市(七山村)	⑪	24年度	佐賀北谷地域おこしフェスティバル実行委員会 佐賀市・神埼市(唐津市・三井町・朝日町)
2年度	ここほれジュウタンボ会	みやき町(三根町)	⑫	25年度	橘町まちづくり推進協議会 武雄市
3年度	加部島地区	唐津市(呼子町)	⑬	26年度	株式会社そよかぜ館 佐賀市(大和町)
4年度	羽金山振興会	佐賀市(富士町)	⑭	27年度	吉田地区 嬉野市(嬉野町)
5年度	清水集落	嬉野市(嬉野町)	⑮	28年度	波多津町まちづくり運営協議会 伊万里市
6年度	北坊集落	多久市	⑯	29年度	松島集落 唐津市(鎮西町)
7年度	杉山集落	佐賀市(富士町)	⑰	30年度	—
8年度	伊岐佐上集落	唐津市(相知町)	⑱	令和元年度	—
9年度	南波多町農業振興協議会	伊万里市	⑲	2年度	—
10年度	伊福集落	太良町	⑳	3年度	—
11年度	西与賀地域実践協議会	佐賀市	㉑	4年度	—
12年度	大良むらぐるみ運動実践協議会	唐津市	㉒	5年度	—
13年度	福富地域むらぐるみ運動実践協議会	白石町(福富町)	㉓	6年度	—



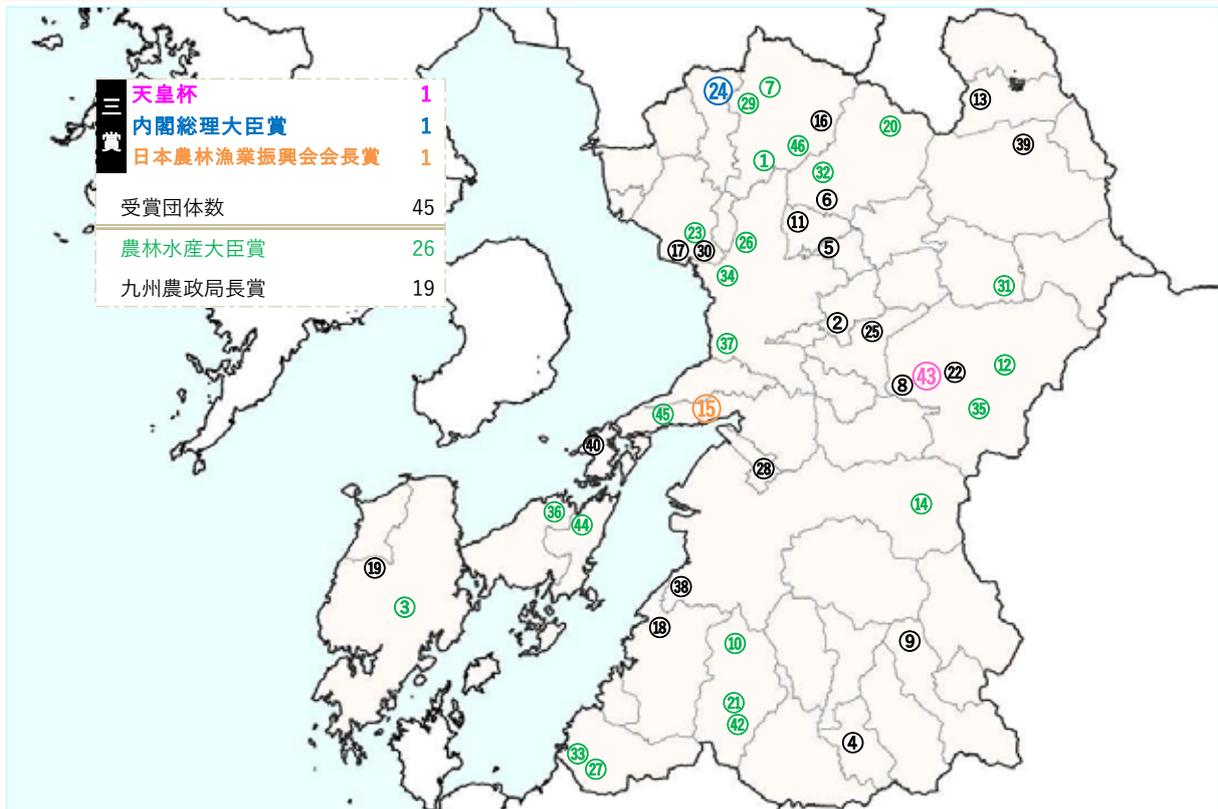
長崎県

年度	団体名	所在地	年度	団体名	所在地
昭和54年度	大宝肉用牛生産組合	五島市(玉之浦町) ①	14年度	「きんかい味彩市」生産者の会	長崎市(琴海町) ②④
55年度	有喜地区むらづくり推進委員会	諫早市 ②	15年度	鬼木郷地区	波佐見町 ②⑤
56年度	大島町むらづくり運営委員会	西海市(大島町) ③	16年度	わくわくふれあい市利用組合	佐世保市 ②⑥
57年度	緑を守る小値賀町青年連合会	小値賀町 ④	17年度	中尾地区農業振興協議会	長崎市 ②⑦
58年度	北有馬町むらづくり推進委員会	南島原市(北有馬町) ⑤	18年度	—	—
59年度	開名困組	諫早市(飯盛町) ⑥	19年度	芦辺湯岳生産組合	壱岐市(芦辺町) ②⑨
60年度	鈴田地区開発振興会	大村市 ⑦	20年度	内山地区むらづくり代表者会	対馬市(厳原町) ③⑩
61年度	小串郷自治会	新上五島町(新魚目町) ⑧	21年度	大中尾棚田保全組合	長崎市(外海町) ③⑪
62年度	川内郷振興会	波佐見町 ⑨	22年度	—	—
63年度	田ノ平免	松浦市 ⑩	23年度	後登龍活性化委員会	南島原市(加津佐町) ③⑫
平成元年度	根引農事研究会	佐世保市(江迎町) ⑪	24年度	特定非営利活動法人おちかアイランドツーリズム協会	小値賀町 ③⑬
2年度	惣清地区生活改善グループ	壱岐市(芦辺町) ⑫	25年度	佐護ヤマネコ稲作研究会	対馬市(上県町) ③⑭
3年度	岩戸村づくり実行委員会	雲仙市(瑞穂町) ⑬	26年度	根獅子集落機能再編協議会	平戸市 ③⑮
4年度	松原地域掘り起こし実行委員会	大村市 ⑭	27年度	—	—
5年度	南串山町新農業研究会	雲仙市(南串山町) ⑮	28年度	一般社団法人南島原ひまわり観光協会	南島原市 ③⑯
6年度	高田むらづくり実行委員会	雲仙市(瑞穂町) ⑯	29年度	大中尾棚田保全組合	長崎市(外海町) ③⑰
7年度	田尻名干拓部落	諫早市(森山町) ⑰	30年度	—	—
8年度	野岳山麓農村活性化協議会	大村市 ⑱	令和元年度	さいかい元気村協議会	西海市 ④⑰
9年度	折山集落	諫早市(高来町) ⑲	2年度	やったろう de 高島	長崎市(高島町) ④⑱
10年度	赤仁田営農組合	南島原市(西有家町) ⑳	3年度	—	—
11年度	よかところ実行委員会	西海市(西海市) ㉑	4年度	—	—
12年度	中山・五反田里づくりの会	川棚町 ㉒	5年度	—	—
13年度	現川物産館じげもん市	長崎市 ㉓	6年度	—	—



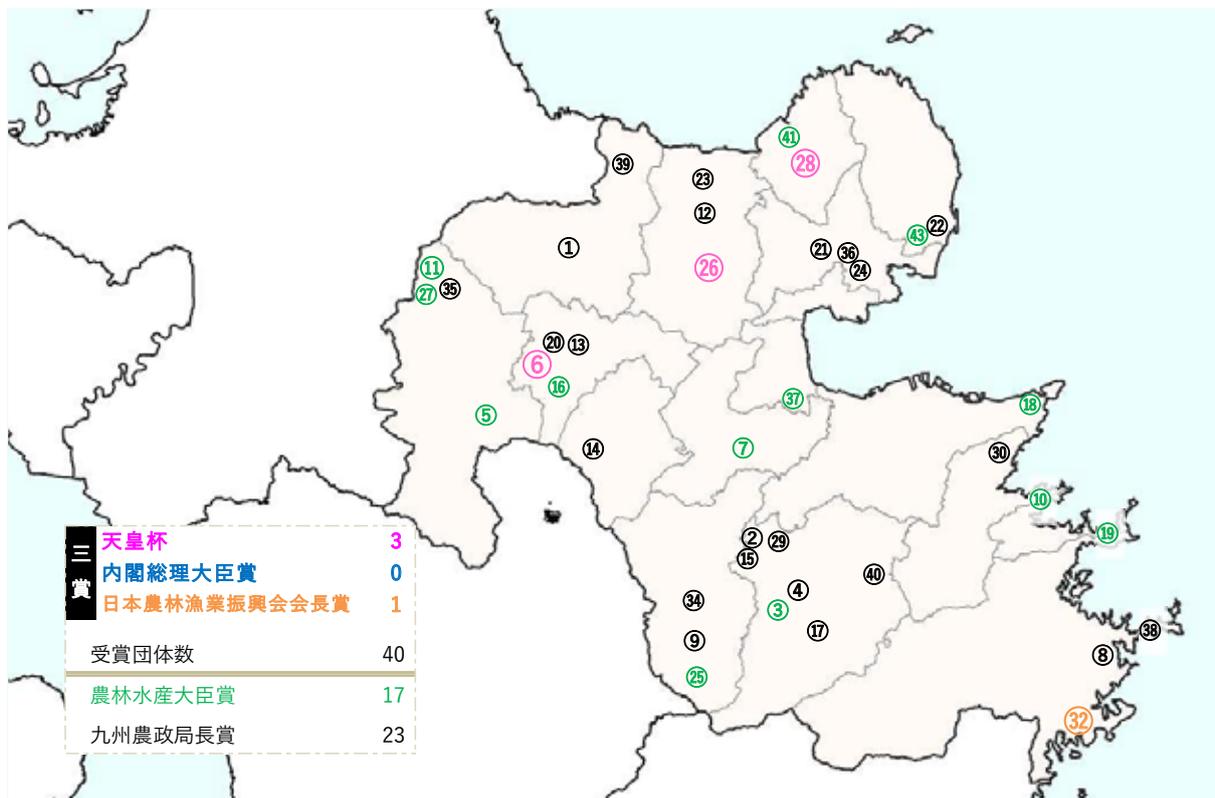
熊本県

年度	団体名	所在地	年度	団体名	所在地
昭和54年度	馬見塚振興会	山鹿市	14年度	夢ランド十町	和水町(三和町)
55年度	小池・秋永地区	益城町	15年度	八勢地区	御船町
56年度	碓石地区	天草市(新和町)	16年度	西里とれたて市会	熊本市
57年度	清水地区	あさぎり町(上村)	17年度	村丸ごと生活博物館頭石	水俣市
58年度	堀川地区	菊陽町	18年度	吉野梨研究同志会	氷川町(竜北町)
59年度	福本地区	菊池市	19年度	平小城活性化協議会	山鹿市
60年度	小坂地区	山鹿市	20年度	天水農産物直売所協議会「てんすい郷〇市」	玉名市(天水町)
61年度	島木地区	山都町(矢部町)	21年度	両併地区	南阿蘇村(白水村)
62年度	柳野集落	多良木町	22年度	七城ホテルを育てる会	菊池市(七城町)
63年度	球磨村森林組合	球磨村	23年度	村丸ごと生活博物館越小場地区	水俣市
平成元年度	江良区	合志市(西合志町)	24年度	東門寺集落	熊本市
2年度	熊本清和農業協同組合	山都町(清和村)	25年度	菅地域振興会	山都町(矢部町)
3年度	中湯田集落	南小国町	26年度	大浦地区振興会	天草市(有明町)
4年度	五家荘平家の里管理組合	八代市(泉村)	27年度	天明環境保全隊	熊本市
5年度	大見集落	宇城市(不知火町)	28年度	NPO法人二見わっしょいファーム	八代市
6年度	阿佐古集落	山鹿市(菊鹿町)	29年度	手野名水会	阿蘇市(一の宮町)
7年度	横島町特産物振興協会	玉名市(横島町)	30年度	上天草物産館さんばーる出荷協議会	上天草市
8年度	横居木集落	芦北町(田浦町)	令和元年度	—	—
9年度	福連木地区	天草市(天草町)	2年度	田舎の体験交流館さんがうら運営委員会	球磨村
10年度	鳳来地区	菊池市	3年度	白糸第一自治振興会	山都町(矢部町)
11年度	毎床地区	球磨村	4年度	JAあまくさ女性部大矢野総支部	上天草市(大矢野町)
12年度	入佐地区	山都町(矢部町)	5年度	三角サトウキビ活性化会	宇城市
13年度	尾田地区	玉名市(天水町)	6年度	農事組合法人 庄の夢	山鹿市



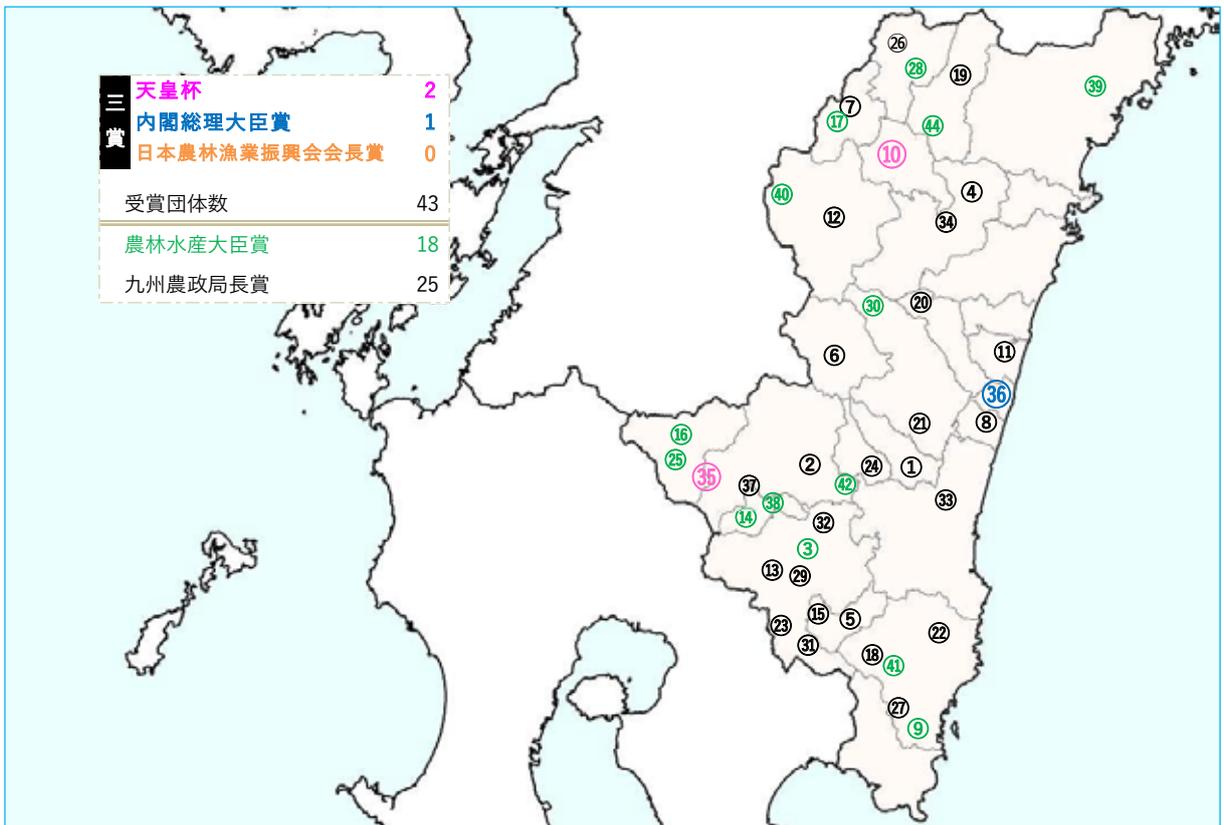
### 大分県

年度	団体名	所在地	年度	団体名	所在地
昭和54年度	鎌城酪農部	中津市(耶馬溪町)	14年度	新庄むらづくり協議会	杵築市
55年度	温見地区	豊後大野市(朝地町)	15年度	九重野地区担い手育成推進協議会	竹田市
56年度	草深野集落	豊後大野市(緒方町)	16年度	松本集落	宇佐市(安心院町)
57年度	津留農地利用組合	豊後大野市(大野町)	17年度	大肥郷ふるさと農業振興会	日田市
58年度	大山町農業協同組合	日田市(大山町)	18年度	ふき活性化協議会	豊後高田市
59年度	山田西区	玖珠町	19年度	温見地区	豊後大野市(朝地町)
60年度	住みよい豊かなむらにする会	由布市(庄内町)	20年度	藤河内・元気なむらづくりの会	白杵市
61年度	大分県漁業協同組合米水津支店	佐伯市(米水津村)	21年度	—	—
62年度	荻町恵良原地区	竹田市(萩町)	22年度	NPO法人かまえプレーンツーリズム研究会	佐伯市(蒲江町)
63年度	長目地区むらづくり推進協議会	津久見市	23年度	—	—
平成元年度	大鶴地区	日田市	24年度	農事組合法人紫草の里営農組合	竹田市
2年度	下矢部地区	宇佐市	25年度	農事組合法人小野谷	日田市
3年度	古後地区活性化委員会	玖珠町	26年度	農事組合法人こめ・こめ・くらぶ	杵築市(山香町)
4年度	菅原自治会	九重町	27年度	内成の棚田とむらづくりを考える会	別府市
5年度	綿田地区自治会	豊後大野市(朝地町)	28年度	間越地区活性化推進協議会	佐伯市(米水津村)
6年度	小田生き活き健康村実行委員会	玖珠町	29年度	三光コスモス祭り実行委員会	中津市(三光村)
7年度	清川町林業研究グループ	豊後大野市(清川町)	30年度	農事組合法人芦刈農産	豊後大野市(三重町)
8年度	木佐上コミュニティ	大分市(佐賀関町)	令和元年度	農事組合法人グリーンファーム畑	豊後高田市
9年度	深良津二世会	津久見市	2年度	—	—
10年度	山下を良くする会	玖珠町	3年度	農事組合法人いけのうち	国東市(武蔵町)
11年度	竜船蛟の里づくりの会	杵築市(山香町)	4年度	—	—
12年度	山口陽農会	国東市(安岐町)	5年度	—	—
13年度	下城井農用地改善組合	宇佐市	6年度	—	—



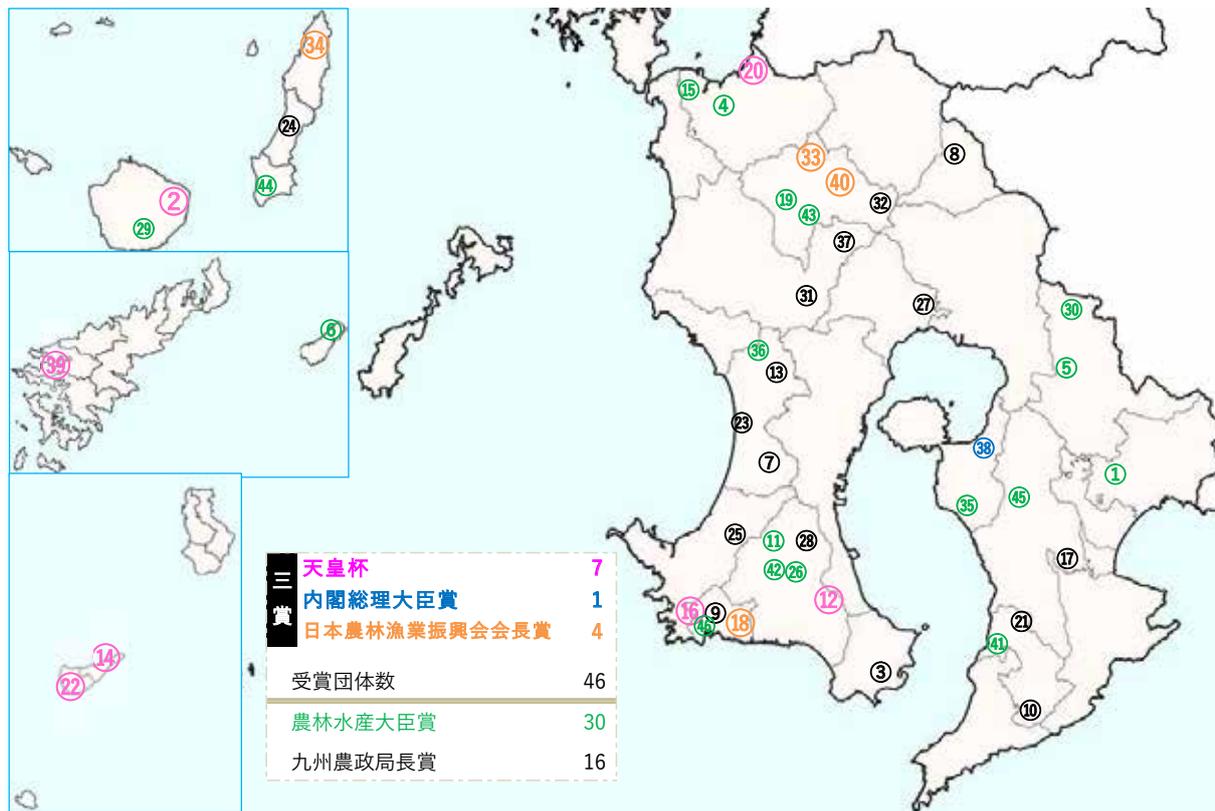
宮崎県

年度	団体名	所在地	年度	団体名	所在地		
昭和54年度	国富町新農業振興対策協議会	国富町	①	14年度	綾町有機農業実践振興会	綾町	②4
55年度	内山集落	小林市(須木村)	②	15年度	西長江浦むらづくり協議会	えびの市	②5
56年度	笛水集落	都城市(高崎町)	③	16年度	高千穂町下野西集落	高千穂町	②6
57年度	細宇納間公民館	美郷町(北郷村)	④	17年度	南平宮農組合	日南市	②7
58年度	長田地区公民館	三股町	⑤	18年度	五ヶ村地区むらづくり協議会	高千穂町	②8
59年度	西米良果樹振興協議会	西米良村	⑥	19年度	薄谷むらづくり推進協議会	都城市	②9
60年度	宮の原地区	五ヶ瀬町	⑦	20年度	銀鏡むらづくり推進会	西都市	③0
61年度	日置地区	新富町	⑧	21年度	NPO法人正応寺ごんだの会	都城市	③1
62年度	新しい村づくり推進委員会	日南市(南郷町)	⑨	22年度	高崎町笛水地区活性化委員会	都城市(高崎町)	③2
63年度	諸塚村自治公民館連絡協議会	諸塚村	⑩	23年度	下小松集落宮農組合	宮崎市	③3
平成元年度	清水・孫谷農事振興組合	川南町	⑪	24年度	上野原地区集落宮農組合	美郷町(西郷村)	③4
2年度	桑の実生活改善グループ	椎葉村	⑫	25年度	田代自治会	えびの市	③5
3年度	上南山田地区営農振興組合	都城市(山田町)	⑬	26年度	染ヶ岡地区環境保全協議会	高鍋町	③6
4年度	花堂むらおこしグループ	高原町	⑭	27年度	北きりしま田舎物語推進協議会	小林市・高原町・えびの市	③7
5年度	笠祇地区村づくり推進協議会	串間市	⑮	28年度	農事組合法人はなどう	高原町	③8
6年度	池島区	えびの市	⑯	29年度	川坂川を守る会	延岡市(北川町)	③9
7年度	宮の原むらづくり推進協議会	五ヶ瀬町	⑰	30年度	焼畑蕎麦苦楽部	椎葉村	④0
8年度	酒谷地区むらおこし推進協議会	日南市	⑱	令和元年度	酒谷地区むらおこし推進協議会	日南市	④1
9年度	鹿川集落	日之影町	⑲	2年度	一里山地区ふるさとづくり推進協議会	宮崎市(高岡町)	④2
10年度	中之又ふれあい里づくり協議会	木城町	⑳	3年度	—	—	—
11年度	石野田集落	西都市	㉑	4年度	大人発電農業協同組合	日之影町	④4
12年度	大藤地区推進委員会	日南市(北郷町)	㉒	5年度	—	—	—
13年度	横市農用地利用改善組合	都城市	㉓	6年度	—	—	—



鹿児島県

年度	団体名	所在地	年度	団体名	所在地
昭和54年度	蓬原中野小組合	志布志市(有明町)	14年度	野間下地区むらづくり委員会	中種子町
55年度	麦生集落	屋久島町(屋久町)	15年度	舞敷野公民館	南さつま市(加世田市)
56年度	浜児ヶ水区	指宿市(山川町)	16年度	高田むらづくり委員会	南九州市(川辺町)
57年度	高尾野千間山集落	出水市(高尾野町)	17年度	小山田地区むらづくり委員会	姦良町(加治木町)
58年度	帯野地区	曾於市(財部町)	18年度	塗木むらづくり推進委員会	南九州市(知覧町)
59年度	小野津地区	喜界町	19年度	原区むらづくり委員会	屋久島町(屋久町)
60年度	永野地区	日置市(吹上町)	20年度	中谷地区むらづくり委員会	曾於市(財部町)
61年度	川添地区	湧水町(吉松町)	21年度	大馬越地区コミュニティ協議会	薩摩川内市(入来町)
62年度	桜馬場地区	枕崎市	22年度	永野区むらづくり委員会	さつま町(薩摩町)
63年度	花瀬地区むらづくり推進協議会	錦江町(田代町)	23年度	久富木区公民館	さつま町(宮之城町)
平成元年度	永田地区営農振興会	南九州市(川辺町)	24年度	現和校区	西之表市
2年度	上別府東部地区むらづくり振興会	南九州市(願住町)	25年度	新城地区公民館	垂水市
3年度	田代地区むらづくり振興会	日置市(東市来町)	26年度	高山地区公民館	日置市(東市来町)
4年度	国頭むらづくり委員会	和泊町	27年度	黒木地区コミュニティ協議会	薩摩川内市(祈答院町)
5年度	青木地区	出水市(野田町)	28年度	大野地区公民館	垂水市
6年度	大塚村づくり委員会	枕崎市	29年度	阿室校区活性化対策委員会	宇検村
7年度	大迫むらづくり推進委員会	鹿屋市(串良町)	30年度	中津川区公民館	さつま町(薩摩町)
8年度	菊永むらづくり推進委員会	南九州市(知覧町)	令和元年度	宿利原地区公民館	錦江町(大根占町)
9年度	時吉区公民館	さつま町(宮之城町)	2年度	高田村づくり委員会	南九州市(川辺町)
10年度	上場自治公民館	出水市	3年度	一ツ木公民会	さつま町(宮之城町)
11年度	池田校区振興会	錦江町(大根占町)	4年度	葦永地区自治公民館	南種子町
12年度	正名字	知名町	5年度	高隈コミュニティ協議会	鹿屋市
13年度	扇尾公民館	日置市(日吉町)	6年度	夢蛍たぶがわ2016	枕崎市



## 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」を選定

令和6年11月25日(月)に総理大臣官邸で有識者懇談会が開催され、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第11回選定)に30地区が選定されました。

### 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」とは？

「強い農業」「美しく活力のある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信する取組みです。

### 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に選定されたら・・・

マルシェの参加や SNS での情報発信、ウェブサイトにおける選定地区のおすすめ商品の紹介等のメリットがあります。選定地区からは、メディアで紹介される機会が増加し、関係者の意欲向上や売上げの増加につながったなどの声も多数寄せられています。

### ◆ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第11回選定結果)

#### <コミュニティ・地産地消部門:11地区>

-  北海道幌加内高等学校 (北海道 幌加内町)
-  ひろさき援農プロジェクト (青森県 弘前市)  
秋田県南旭川水系土地改良区 (秋田県 横手市)
-  群馬県立尾瀬高等学校 (群馬県 沼田市・片品村)  
有限会社あわら農楽ファーム (福井県 あわら市)  
NPO 法人おかざき農遊会 (愛知県 岡崎市)  
服部農園有限会社 (愛知県 大口町)  
もりやま食のまちづくりプロジェクト (滋賀県 守山市)  
出上農地・水保全活動組織 (鳥取県 琴浦町)  
愛媛県立北宇和高等学校三間分校地域情報ビジネス部 (愛媛県 宇和島市)  
糸満市地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会 (沖縄県 糸満市)



 .....グランプリ

 .....優秀賞

#### コミュニティ・地産地消部門

関係者の連携による活動で地域に活力をもたらす取組み等

#### <ビジネス・イノベーション部門:16地区>

-  株式会社エース・クリーン (北海道 北見市)
-  北海道積丹町におけるブルーカーボン創出プロジェクト協議会 (北海道 積丹町)  
Pilz 株式会社 (秋田県 横手市)  
有限会社玉谷製麺所 (山形県 西川町)  
合同会社ねっか (福島県 只見町)  
あけぼの農園株式会社 (山梨県 身延町)  
MISAKI CREATORS (福井県 越前町)  
80%山のまちを元気にする協議会 (岐阜県 八百津町)  
宇陀市古民家活用地域活性化協議会 (奈良県 宇陀市)  
吉縁起村協議会 (岡山県 真庭市)  
株式会社神東ファーム (山口県 岩国市)  
きりぬき (愛媛県 松山市)  
大正町市場協同組合 (高知県 中土佐町)  
NPO 法人 SDGs Spiral (福岡県 北九州市)  
株式会社なかせ農園 (熊本県 大津町)  
株式会社豊後大野クラスター (大分県 豊後大野市)

#### ビジネス・イノベーション部門

事業化を通じて所得向上や雇用を生み出す取組み等

#### <個人部門:3名>

- 小澤 善昭 (石川県 七尾市)
-  中上 光 (島根県 西ノ島町)
- 島袋 みさえ (沖縄県 読谷村)

#### 個人部門

地域でリーダー的な活躍をしている者等

九州農政局においても、全国選定以外の優れた取組みについて、令和6年度九州農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として4地区を選定しました。

◆令和6年度九州農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」選定結果

＜コミュニティ・地産地消部門：1団体＞

・やまが BASE 事業協同組合（熊本県 山鹿市）—移住者と地域が伴に創る新しい地方の形—

取組概要：2023年3月に熊本県内で2例目の特定地域事業協同組合に認定され、6月に大阪からのJターン移住者、翌年3月に東京からのIターン移住者、地元中学卒業以来13年ぶりに山鹿に戻るUターン移住者を採用。UIJ移住者雇用と組合員の繋閉に応じた人材不足等の課題解決、新たな挑戦の後押しをする。

＜ビジネス・イノベーション部門：2団体＞

・福岡食育健康都市づくり地域協議会（福岡県 福岡市）—食の生産地を繋ぐファーマーズマーケット—

取組概要：都市部と過疎地の人的・物的交流を推進し、県産品の消費と理解を促進することで過疎地の経済に寄与。未来の消費者である子供たちに、地元の食材の素晴らしさを広める役割も担っており、学生や生徒にも積極的に運営に加わってもらい、教育的なエンタテインメント要素を取り入れながら農業への理解、地元農水産物への関心を高めていく。

・そのもの株式会社（福岡県 福岡市）（佐賀県 江北町）—地域貢献する進化系納豆で海外需要をつかめ—

取組概要：世界で評価される日本の伝統発酵食「納豆」を原料にした、納豆が苦手な人でも摂取しやすい進化系納豆「そのもの納豆菌シリーズ」では、佐賀県江北町有機研究会の高品質な大豆を使用。地元大豆で作った商品の健康効果を科学的に実証し、健康的で持続的な町づくりを町全体で進めるとともに、生産者の収入安定と労働環境の改善にも取り組む。

＜個人部門：1名＞

・林田 真明（長崎県 雲仙市）—その漢の名は「ちゃんぼん番長」—

取組概要：郷土食「小浜ちゃんぼん」を確立し、その推進団体である「小浜ちゃんぼん愛好会」の設立による飲食店及び異業種との協働による地域活性化を促進。同時に自らが「ちゃんぼん番長」というキャラクターとなり、様々なメディアを通じて大々的にPRを行うことで、知名度の向上、地域活性化に貢献している。

選定団体の取組み等については、農林水産省及び九州農政局のホームページをご覧ください。

農林水産省： <https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html>

九州農政局： <https://www.maff.go.jp/kyusyu/keikaku/discover/discover.html>

◆全国選定団体の紹介＜ビジネス・イノベーション部門＞

NPO 法人 SDGs Spiral

—SDGs 万華鏡 KAGUYA プロジェクト—



竹林整備



海岸清掃



山と海のゴミで作った万華鏡

福岡県 北九州市

教育機関と連携

食育・教育

学生・若者の活躍

＜概要＞

- ・竹林管理、海洋ごみが課題になっており、竹林整備・森林保全、海洋の清掃等の活動を実施。
- ・「山」と「海」の課題を包括的に捉え同時に解決・改善するため、子供が楽しく学ぶことができる環境教育プロジェクトを実施。

（成果）

- ・竹林整備・森林保全活動に約840名参加、約650本（約26t）の竹を伐採。清掃活動に、約960名参加、延べ7,200kgの海洋ゴミ回収。
- ・障害を持っている子供たちが中心となって全国23カ所でワークショップを実施し、山と海のゴミを利用して万華鏡を作成。

## 株式会社なかせ農園

— 創造的復興と経営の選択肢としての農福連携 —



A型利用者の作業の様子



さつまいもオブザイヤー受賞



自社ブランド「蔵出しベニーモ」

### <概要>

- ・農福現場のリアルな魅力を伝えることによる正しい理解と興味関心の向上や、産地の付加価値向上活動を実施。
- ・GLOBALG.A.P.の認証を取得し、労働環境の安心安全と作業内容の見える化に注力。

### (成果)

- ・採苗、除草、選果、洗果、出荷調整など幅広い業務をA型支援施設の利用者が担当。農園での作業や農福の取り組みをSNSで公開。
- ・サツマイモ単品目での販路転換、自社ブランドを商品化するなど環境整備と経営の効率化を図ったことで、耕作面積と売上が拡大。

## 熊本県 菊池郡大津町

農業

復興

農福連携

## 株式会社 豊後大野クラスター

— 冷凍・加工整備が産地の共創力を紡ぎ育てる —



ベトナムでの試食会



規格外甘藷を利用したスイーツ



甘藷を収穫する障がい者と施設職員

### <概要>

- ・様々な課題を、地域農業者と連携して強いコミュニティビジネスの確立を目指している。
- ・大手食品メーカーの工場が撤退し、大型冷凍設備・加工機器を譲受し、このメリットを活かす農産加工販売を実施。

### (成果)

- ・令和4年から冷凍焼き芋を東南アジアに輸出開始。カボスの粉末をブリの養殖に活用し、ブランド化するなど売上は徐々に増加。
- ・甘藷や唐辛子の収穫に障がい者を受け入れるなど農福連携に取り組むほか、地元の高校生等のインターンシップを受入。

## 大分県 豊後大野市

6次産業化

企業との連携

学生・若者の活躍

### 【農林水産省ソーシャルメディア】



### BUZZ MAFF (ばずまっ) とは？

農林水産省職員自らが、省公式 YouTube チャンネルで YouTuber となるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さと農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクトです。

### 【九州農政局の BUZZ MAFF】

宮崎のヒテちゃん \ 知られざる九州の魅力をお届けします！ /



## 令和6年度 むらネット九州 (豊かなむらづくりをめざして)

発行：九州農政局

編集：農村振興部 農村計画課

〒860-8527

熊本市西区春日2丁目10番1号 熊本地方合同庁舎

TEL：096-211-9111（内線 4611）

九州農政局むらづくりのページ▼

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/keikaku/murazukuri/murazukuri.html>

【表紙農村風景画像】

小城市観光協会ホームページ

> 観光したい!!> 江里山の棚田と彼岸花（Eriyama tanada）より

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。